

## バイオサイエンス学科 学会発表

【発表者について】アンダーラインは本学教員および研究員、○は発表者、※は大学院生、卒研生または卒業生

学会名	植物化学調節学会 第51回大会（高知大学物部キャンパス）
演題名	シロイヌナズナ芽生えの胚軸間接ぎ木におけるRAP2.6Lとジャスモン酸の機能
発表者	○ <u>松岡 啓太</u> 、柳 来樹※、佐藤 忍、 <u>朝比奈 雅志</u> (植物生理学研究室)
内容	我々はこれまでに、シロイヌナズナ花茎を部分的に切断すると、7日後には切断された髓組織は細胞分裂により強固に再接着することを報告している。また、シロイヌナズナ切断花茎の組織癒合に必須な2種類の転写因子を同定し、傷の上部ではオーキシンの蓄積によりANAC071が誘導され、傷の下部ではオーキシンの枯渇によってRAP2.6Lが誘導されること、RAP2.6Lの発現はジャスモン酸(JA)によっても促進的に制御されることも示した。本研究では、組織癒合に関わるもう一つの因子であるRAP2.6Lとその発現を調節すると考えられるJAに注目した形態及び遺伝子発現解析の結果を報告した。以上の研究は、私立大学戦略的研究基盤形成支援事業、科学研究費補助金(若手B)による支援を受けて行われた。
関連画像	 <p>学会が行われた高知大学物部キャンパス</p>